

国会あて

国の責任による「20人学級」を展望した少人数学級の前進、教職員定数増、教育無償化、教育条件の改善を!

2023年度すべての子どもたちにゆきとどいた教育を求める全国署名

衆議院議長 様
参議院議長 様

I 請願趣旨

2年以上続くコロナ禍のもと、子どもたちの成長・発達、心身への影響は深刻となっています。子どもたちのいのちと健康を守り、学びを保障していくためには、少人数学級のさらなる前進、教職員の増員、養護教諭の配置拡充等が必要です。

義務標準法改正によって国の責任による小学校35人以下学級が約40年ぶりに前進しました。また、全国各地で小・中学校での35人以下学級がさらに前進しています。しかし、OECD平均である20人程度の学級に比べ、学級規模が大きすぎます。国の責任による「20人学級」を展望した少人数学級の前進を小・中学校や高校でさらにすすめるべきです。

「教師不足」問題が全国に広がっています。学校現場では、病気休職や産休・育休などの代替教職員が見つからず、他の教職員や管理職が授業等を行う事態が数か月、場合によっては一年間続くなど、深刻な実態があります。国は教職員定数の削減を毎年続けており、「教師不足」問題の改善に逆行しています。

国の責任で、教職員の負担軽減をすすめるとともに、正規の教職員を増員することが求められています。あわせて、私立高校等経常費助成補助を大幅増額し、私学でも専任の教職員を増員することが必要です。

公立・私学とも学費無償化をすすめるとともに、小学校から高校、大学等での教育無償化、奨学金制度のさらなる拡充など、国際人権A規約「無償教育の漸進的導入」を具体化し、子どもたちが安心して学べる教育条件の整備を国の責任で前進させることが急務です。

この間、政府予算は過去最大を毎年更新する一方で、文教予算は削減され続けています。日本の「公財政教育支出の対GDP比(2018年度)」は2.8%とOECD諸国の中で最低です。これを、OECD諸国平均4.1%まで引き上げれば、小・中学校、高校までさらなる少人数学級の前進、公立・私学ともに就学前から大学まで教育無償化など、ゆきとどいた教育を保障する教育条件整備をすすめることが可能となります。

憲法と子どもの権利条約が生きて輝く学校づくりをすすめるために、すべての子どもにゆきとどいた教育を実現する教育条件整備を以下のように請願します。

II 請願項目

- 子どもたちのいのちと健康を守るとともに、学ぶ権利を保障するため、教育条件整備に全力をあげてください。
- 教育予算をOECD諸国並みに計画的に増やし、教育条件整備をすすめてください。
- 国の責任で、小・中学校、高校での35人以下学級を早期に実現するとともに、「20人学級」を展望して、少人数学級をさらに前進させてください。また、幼稚園や特別支援学級・学校の学級編制標準の引き下げをすすめてください。
- 義務・高校標準法を改正し正規・専任の教職員を増員してください。
- 教育費の保護者負担を軽減するとともに教育無償化をすすめてください。
 - (1) 高校・大学等の学費無償化や高校生・大学生等への給付奨学金制度の拡充をすすめてください。
 - (2) 私学経常費助成補助の増額と就学支援金拡充で学費の公私間格差をなくしてください。
- 公立・私学ともに豊かな環境のもとで学べるよう、教育条件や施設の改善をすすめてください。
 - (1) 特別支援学校の過大・過密解消のため、国による財政支援を拡充し、学校新設や既存校への「設置基準」適用をすすめてください。
 - (2) 学校の耐震化・老朽化対策、洋式トイレやエアコンの普及、バリアフリー化をすすめてください。
- 東日本大震災などの地震や自然災害、福島原発事故の被害を受けた子どもを守り、学校と地域の要望を反映した復旧・復興をすすめてください。

氏名 (フルネームで)	住所 (〇〇県△△市□□町1丁目2-3 ← 番地までお書きください)
	群馬県
	群馬県
	群馬県
	群馬県
	群馬県

※名前(姓)や住所を「//」「同上」のように省略せずに記入してください ※上記個人情報、国会へ提出する以外に使用しません
ゆきとどいた教育をすすめる会 〒102-0084東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館3F TEL:03-5211-0123

群馬県議会あて

教育格差をなくし、ぐんまの子どもたちにゆきとどいた教育をすすめるための 請願署名

群馬県議会議長 様

I 請願趣旨

少人数学級を求める多くの保護者や県民、諸団体の要請に応え、県は昨年度から独自の少人数学級を拡大し、中学校3年生までのすべての学年で35人以下学級を実現しました。このことは、ゆきとどいた教育を実現するための大きな前進です。しかし、同時に教育予算と教職員を削減したのでは効果は限定的です。さらに本格的な教育条件整備に向けた取り組みが求められます。また、群馬でも教職員の未配置が深刻です。学級担任をはじめ必要な教職員が配置されていないことは学習権の侵害であり、緊急な対策が求められます。

私たちは、一人ひとりの子どもたちにゆきとどいた教育が保障され、すべての児童・生徒が生き生きと楽しい学校生活を送ることを願っています。そのためには、画一的なICTの強要ではなく、教育格差をなくし、小・中・高すべての学級での30人以下学級実現や、教育費の無償化、父母負担の軽減などに向けた教育条件を整備することが何よりも重要だと考えます。

日本の「教育機関への公財政支出の対GDP比(2018年度)」は2.8%とOECD諸国の中で最低レベルです。OECD諸国平均の4%程度まで引き上げれば、小・中・高校の30人以下学級の実現のみならず、一人ひとりにゆきとどいた教育を保障するための教育条件整備と、公立・私立ともに就学前から大学まで教育の無償化をすすめることが可能となります。

教育の機会均等を保障するため、国が責任をもって教育条件整備をすすめることはきわめて重要なことです。また、群馬県としても、ゆきとどいた教育を実現するため、教育予算の増額等、さらなる努力をお願いします。

子どもたちの笑顔が輝き、憲法と子どもの権利条約が生きる学校をつくるため、以下のことを請願します。

II 請願事項

- 小・中学校、高校の少人数学級の実現をすすめてください。
 - (1) 小・中学校・高校のすべての学年で30人以下学級を実現するよう国に求めてください。
 - (2) 県の教育予算を増額し、県独自の少人数学級をさらにすすめてください。
 - (3) 特別支援学級の1クラスの子どもの数を減らしてください。
- お金の心配なく子どもたちが安心して学べるよう、県の教育予算を増やし、重すぎる父母負担を軽減してください。
 - (1) 義務教育費国庫負担金の負担率を3分の1から2分の1に戻すよう国に求めてください。
 - (2) 高校授業料無償化を復活させるよう国に求めてください。
 - (3) 私学助成を増額し、お金の心配なく私立高校に進学できるようにしてください。
 - (4) 小・中学校、高校の教育活動に必要な教材費や給食費など、学校納付金を無償にしてください。
 - (5) 地域の高校や定時制高校をなくさないでください。
- 子どもたちが豊かな環境のもとで学べるよう、教職員を増やし、教育条件や施設の改善をすすめてください。
 - (1) 教職員の未配置がおこらないよう、抜本的な対策を講じてください。
 - (2) 学校の耐震化・老朽化対策、洋式トイレやエアコンの普及、バリアフリー化をすすめてください。

氏名 (フルネームで)	住所 (〇〇県△△市□□町1丁目2-3 ← 番地までお書きください)
	群馬県
	群馬県
	群馬県
	群馬県
	群馬県
	群馬県

※この署名簿は、個人情報保護法に基づき、署名提出の目的以外には使用しません。

国会あて(左)・県議会あて(右)両方に同じ名前をご署名ください

教育予算をふやして

かがやけ！ みんなのえがお

せんせい ふやそう！

どの学校も少人数学級に！

教育無償化！

どの子ども安心して
楽しく学べる
学校に

「教育に穴があく」深刻な事態が全国で ～教職員の大幅増員を～

「新学期に担任の先生がいない」「休職した先生の代わりが見つからず、毎日自習」など、教職員の未配置は「教育に穴があく」深刻な事態です。この問題を解決するには、正規の教職員を非正規で置き換えてきた、この間の教職員配置のあり方を抜本的に見直すことが必要です。正規教職員の採用を安定して増やせるよう、中断されたままの教職員定数改善計画の策定を求めます。

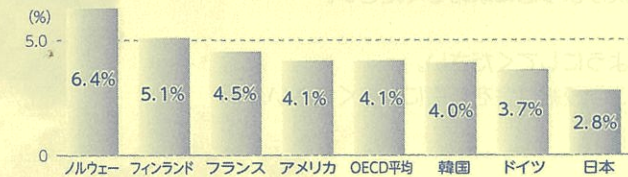
教員採用選考の志願者が減っています。専門性を生かしていきいきと働けるよう、教職員の勤務条件の改善は待たなしの課題です。子どもたちにゆきとどいた教育をすすめるためにも、教職員の長時間過密労働を解消するためにも、教職員の数を大幅にふやしてください。

軍拡よりも教育にお金をまわして

日本の教育予算が国内総生産(GDP)に占める割合は、OECD諸国の中でも最低レベルです。

●公財政教育支出の対GDP比(2019年)

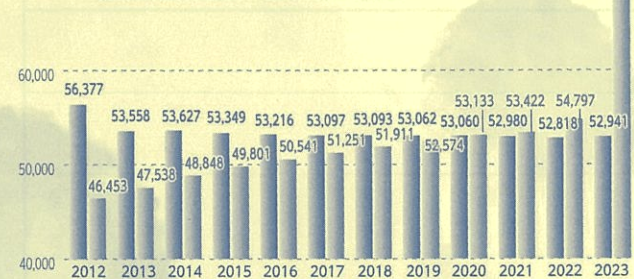
(出典:OECD「図表で見る教育」2022年度版より)



軍拡予算を増やすよりも教育予算をひき上げて、全ての子どもへの“教育への権利”を保障してください。

●文科予算と防衛予算の推移(各年度の当初予算額で作成)

(億円) ■ 文部科学省予算 ■ 防衛省予算
[出所] 各年度の当初予算額(文部科学省、防衛省)

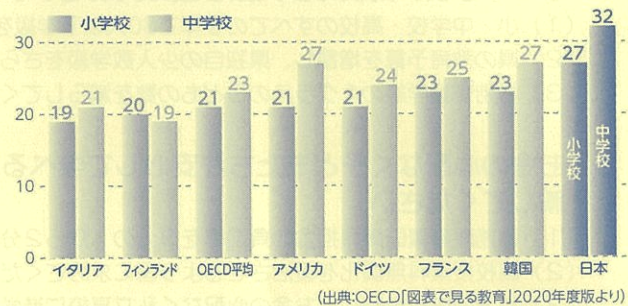


声を上げれば変えられる ～どの学校、どの学年でも少人数学級をただちに！ ～教育無償化をすすめよう～

全国各地で声を上げ、その賛同を広げることで、小学校の35人学級が実現しました。学校給食の保護者負担軽減や無償化のとり組みも前進しています。

- 一人ひとりが大切にされる教育がすすめられるよう、どの学校、どの学年も少人数学級に！
 - お金の心配をしないで学校に通えるよう、教育の無償化を！
- みんなの願いをあつめて、1つ1つ実現させていきましょう。

●こんなに大きい、日本の学校のクラスサイズ (公立小中学校の平均クラスサイズ)



長時間労働をなくすため 時間外手当の支払いを！

教職員の時間外勤務の平均は1か月で92時間34分。厚生労働省の過労死ライン(月80時間)を大きく超えています。6割近くが、休憩時間が全く取れていません。

教職員が人間らしく働き、子どもたちの教育にあたることできるようにするために、給特法を改正して時間外勤務の対価を支払うしくみをつくり、教職員の数を増やすことが重要です。

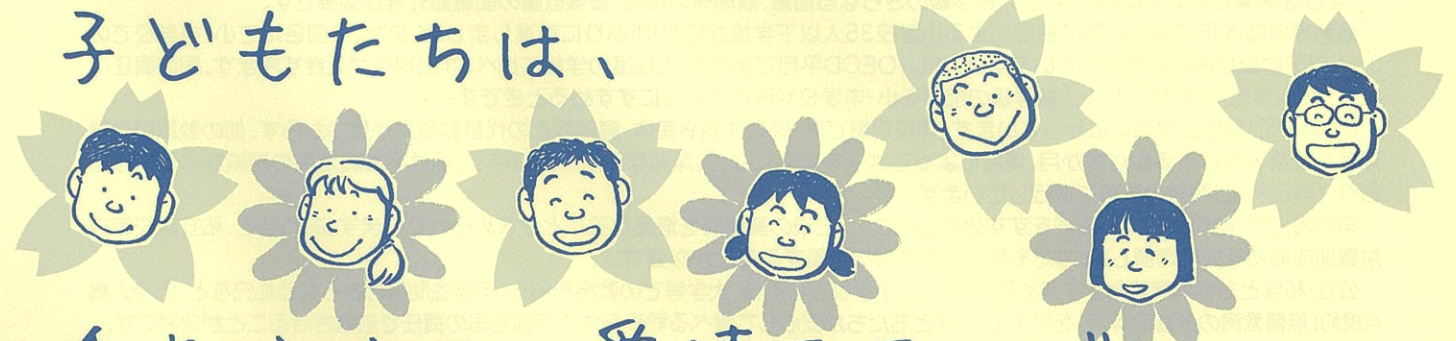
●校内での時間外勤務(1か月) (全国の教職員2524人の2022年10月下旬の勤務実態から計算)



国や県の教育予算を増やして 教育費の父母負担を軽減しよう！

2023年度ゆきとどいた教育をすすめる会「教育全国署名」

子どもたちは、



手をかけて、愛情そそいで、
みんなで育てましょう！

集めようみんなの願い、届けよう国・県へ

- クラスの子どもたちと、もっとじっくり向き合いたい！
ぜったい30人学級が必要・特別支援学級は6人以下に
- 国は他の先進国なみにもっと教育にお金をかけて！
- 保護者負担には限界がある。
必要とするすべての高校生・大学生に対する返済不要の奨学金制度を
- 給食費は無料(公費負担)にして
- 卒業アルバムが買えない、修学旅行に行けない、
そんな悲しい思いをさせないで
- お金の心配なく、近くの私立高校に進学したい
- 先生の未配置がおこらないようにしてほしい



- イジメのSOSを見逃してはいけない！
やっぱり少人数学級
- 定時制高校を無くさないで！
- 「高校授業料無償化」を復活させて

群馬県ゆきとどいた教育をすすめる会 連絡先 〒371-0854 群馬県前橋市大渡町1-10-7 全群馬教職員組合内
TEL 027(210)7630 FAX 027(210)7631 E-mail zengunkyo@educas.jp

群馬県ゆきとどいた教育をすすめる会 連絡先 〒371-0854 群馬県前橋市大渡町1-10-7 全群馬教職員組合内
TEL 027(210)7630 FAX 027(210)7631 E-mail zengunkyo@educas.jp